

【様式】

平成30年度 学校マネジメントシート（案）

学校名（四日市中央工業高等学校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○校訓「誠実 努力 親切」及び「四中工はあなたの能力を伸ばします！」の指導方針のもと、学習者の視点に立って、安全で安心な教育環境を全教職員が一丸となって構築し、生徒・保護者・地域の方々に信頼される工業高校を目指します。
(2)	育みたい 児童生徒像	○基本的な生活習慣が確立し、基礎学力やコミュニケーション能力の定着が図られ、将来のグローバル社会においても対応できる実践能力や課題解決力を備えている。
	ありたい 教職員像	○企業が望む人材を育てるため、教員自らが、たゆみなく授業力の向上に努力できる。 ○協働による取組により組織力を高めることができる。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒> 分かりやすく丁寧な指導を望み、社会で役立つ知識や技術を身につけたい。</p> <p><保護者> 生徒が希望する進路実現が果たせるよう、しっかりと指導してほしい。</p> <p><企業・大学> 基本的な生活習慣を身につけ、基礎学力やコミュニケーション力を持ち、社会人として組織の中で、明るく元気に能力を発揮出来る力を身につけてきてほしい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p><家庭> 安全で安心な教育環境のもと、生徒の能力を伸ばして欲しい。</p> <p><企業・大学> 挨拶や礼儀などの基本的な生活習慣を確立させるとともに、明るく元気で組織の中で能力を発揮できる人材が欲しい。</p> <p><地域社会> 生徒の地域社会における規律遵守と地域行事への参加等協力が欲しい。</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p><家庭> 学校の教育方針への理解と協力、及び躰等での家庭の立場で学校を応援してほしい。</p> <p><企業・大学> 継続的な受け入れをして欲しい。技術指導等外部教育の面で協力して欲しい。</p> <p><地域社会> 地域が学校と手を携え、一緒に子どもたちを育てて欲しい。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>○生徒は、全体的に落ち着いており生徒指導上も一定規律の遵守が確保されている。</p> <p>○学力向上に向けた取組やキャリア教育の系統的な取組が可能になっている。</p> <p>○進路保障についても、就職や進学ともに順調である。等、一定の評価を受けた。</p> <p>○一方、今年度本校への入学希望者数は、満足できない結果が出ており、この原因として社会の不透明さ、先行きの不安定さからくる要因により、社会に関心が持てず、夢や希望もなく、やりたいことが具体的に見えてこない子どもたちが増えつつあることなどが考えられることを認識したうえで、このような中で、工業高校を卒業して地元に残り、地元のために働くことがいかに大切であり重要な社会貢献であるかということ子どもたちやその保護者に十分理解してもらうことや、工業高校を拠り所としてくれるような、魅力ある学校づくりを行う必要があるなど課題がある。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>授業規律の確立が進んできたが、引き続き、より一層の充実に努め、生徒が主体的に授業に臨むような授業の展開を行うことが課題である。</p> <p>主体的な学びやコミュニケーション力を養うと同時に、生徒一人ひとりが基礎学力を向上させることが必要となっている。</p>	

学校運営等	部活動の活発な学校として中学校や地域、企業からの評価は高い。工業高校生として専門分野に精通し、グローバル化等の社会変化に対応できる力を身につけるとともに、部活動をとおして磨かれる強い精神力と身体を兼ねそなえた職業人を育成するため、組織力向上の取組を充実させる必要がある。 過重労働気味の教職員も多く、さらに業務の効率化が必要である。
-------	---

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の基本的な生活習慣を確立し、挨拶や時間の遵守など社会生活での対応力を育てます。 低学年次からのキャリア教育に取り組み、生徒に組織や社会における対応力、コミュニケーション力を身につけさせ第1志望の合格内定者増を目指します。 温かい人間関係づくりや仲間づくりの取組をとおして、他人を思いやり、痛みの分かる生徒を育て、尊い命を大切にすることを育む教育の取組をめざします。 新学習指導要領が告示され、また、高校の学力確認テストの試行実施もまじかに控えたなか、主体的な学びに対応したカリキュラム改善を検討します。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に提供する授業内容を工夫改善し、学力向上に繋げるため、小グループによる授業公開等を行い、教員の授業力向上を図る取組を行います。 学校活性化のための取組を進める上で、全職員が学校の課題を共有し、県立高等学校活性化計画を踏まえて多様な教育課題へ組織的、協働的に取り組むことができる集団づくりを進めます。 教職員が、仕事を助け合い、また、意欲的に業務に取り組めるよう、組織の目的を共有する対話の場をつくり、教育活動全般の刷新と業務内容のスリム化や課外活動の指導の工夫等により、総勤務時間の縮減を図ります。中でも、月80時間を超える過重労働教職員を段階的に減少させ、平成33年度4月までにほぼ0人とするよう取り組みます。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 進路マップの成果検証に取り組みます。 新指導要領を踏まえて、生徒が主体的、効果的に学べるカリキュラムを検討します。 【活動指標】2回の進路マップの実施 新学習指導要領にかかるカリキュラム検討の実施 【成果指標】2回目の進路マップD3判定の生徒数が1回目の生徒D3生徒数の50% 年度末調査における、新学習指導要領にかかる授業改善にかかる教職員の関心度70% 	(年度末および適宜記載)	
キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 低学年次からキャリア教育に取り組み、組織の中での対応力やコミュニケーション力を養います。 【活動指標】多様な進路ガイダンス等の実施 【成果指標】生徒の進路実現に対する満足度90% 		
生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 自転車通学マナーの向上と交通事故減少を年間通して取り組みます。 廊下等での「ながらスマホ」対策に取り組みます。 【活動指標】日常の指導に加えて強化取組を実施 【成果指標】年間通学時の交通事故発生件数 前年度比70% 		

	2月期、廊下での注意回数 0回		
人権教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・人権感覚豊かな学校環境づくりと仲間づくりを進め、命を大切にすることを育む教育の取組を行います。 【活動指標】 人権講演会、人権 LHR、県の研究事業、中央祭や保健部行事等の学校行事の活用 【成果指標】 年度末調査における教職員によるプラス評価90%		
改善課題			
(年度末に記載)			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・県立高等学校活性化計画を踏まえ、学級減を見据えた対応の協議を進めるとともに、全国総体など役割が増える中、教職員の協働による取組と課外活動の指導の工夫等により総勤務時間の縮減を図る。 【活動指標】 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学級減を見据えた学校活性化に向けた検討会の実施 2回 (2) 定時退校日の設定 <ul style="list-style-type: none"> ・原則毎週月曜日を定時退校日とし、原則日に実施できない場合は別の日に週1日以上設ける。 (3) 部活動休養日の設定 <ul style="list-style-type: none"> ・「三重県部活動ガイドライン」に従い、原則、土日のどちらかを部活動休養日とする。土日に実施できない場合は別の日に1日の休養日を設ける。 (4) 会議時間の短縮と会議数の削減 <ul style="list-style-type: none"> ・放課後の会議時間は60分以内を目途とする。 (5) 各教職員が年間休暇取得日数の前年度比1日増 【成果指標】 <ul style="list-style-type: none"> ○月時間外労働時間前年度比10%減 ○総勤務時間の平成28年度対比3%縮減 ○年度末調査における、学級減にかかる対応の教職員の関心度70% ○月80時間以上の過重労働教職員の延べ人数が前年度比70% 	(年度末および適宜記載)	

チームワークの向上・意欲の増進	<ul style="list-style-type: none"> ・四中工の未来を語る会等を始め、職員による交流会を開催し、今後の学校の特色化の推進を図ります。 <p>【活動指標】年1回の実施</p> <p>【成果指標】参加職員の満足度70%</p>		
地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・工業高校としてのものづくり教育を充実させ、その成果や教育活動の内容を地域へ積極的に発信し、学校に対する理解を深め、地域との結びつきを充実させます。 <p>【活動指標】年5回の発信活動</p>		
改善課題			
(年度末に記載)			

5 学校関係者評価

明らかにした改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
--------------------	----------

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)